

新市立病院建設に向けての考え方

1 基本理念と基本方針

新市立病院では、うわまち病院の基本理念、基本方針を引き継いでいきます。

(1) 基本理念

私たちは、優しい心、深い知識、高い技術をもって安全に配慮した、良質な医療を提供し、地域社会に貢献します。

(2) 基本方針

ア 私たちは説明責任を果たし、医療の透明性を保つことで、安全な医療を受診者とともに築きます。

イ 私たちは、救急・災害医療の充実につとめます。

ウ 私たちは診療連携に力を入れ、市民とともに地域医療を守ります。

エ 私たちは、医療に従事する誇りとよろこびを持ち、勤勉であり、強い意志を持ち、進歩的で合理的な考え方に基づいた医療を提供します。

オ 私たちは、自己の教育能力を高め、教育研修病院として将来の地域医療を担う人材の育成につとめます。

2 新市立病院整備にあたっての基本方針

(1) 24時間365日いつでも救急医療を提供できる病院

- ・救命救急センター機能を強化します。
- ・手術室やICU（集中治療室）の充実を図ります。
- ・周辺環境に配慮しつつ、ドクターヘリの離着陸が円滑に行えるよう、建物の屋上階に飛行場外離着陸場（屋上ヘリポート）を設置することを検討します。屋上ヘリポートの設置については、基本設計段階で最終決定します。

(2) 災害に強い安全で安心な病院

- ・大規模災害の発生に備え、病院BCPの概念を取り入れた施設整備を行います。
- ・大地震後にも診療を継続できるよう、免震構造を基本とします。
- ・津波・豪雨の発生に備え、地下階の非設置、十分な雨水貯留槽の設置等の浸水対策を検討します。
- ・台風や竜巻による突風の発生に備え、ガラス飛散防止等の飛来物対策を検討します。
- ・ライフラインの確保や食料、医薬品等の備蓄を行うことにより、災害時にも医療を継続できる施設を整備します。
- ・災害医療を行うために十分なトリアージ及び診療スペースを確保します。

(3) 患者にとって分かりやすく、信頼される、明るい病院

- ・患者と医療従事者との信頼関係を築き、良質な医療を提供することができるよう、施設を整備します。

- ・快適で良好な療養環境を整備します。
- ・快適な外来スペースを整備します。
- ・外来、診察室等の各診療部門を分かりやすく配置し、利用しやすい部門配置計画とします。
- ・高齢者、子ども、障害のある方、多様な性的指向や性自認の方、外国人など、さまざまな方々に配慮します。
- ・誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの考えに基づいたサイン計画、内装デザインを採用します。
- ・患者が利用しやすく、過ごしやすい利便サービス施設等を整備します。

(4) 職員にとって働きやすい病院

- ・関連する部門の近接性やつながり、人やモノの流れを考慮した診療効率の向上を図る部門配置とします。
- ・患者動線と職員動線が交錯しないよう配慮した施設を整備します。
- ・ICT・IoT・AI（人工知能）等を導入しやすい環境を整備します。
- ・多様な職員が活躍できるよう、その特性等に配慮した職場環境を整備します。
- ・診療に専念できる職場環境を整備し、優秀な医療従事者の安定的な確保と人が育つ環境を整備します。

(5) 将来の変化に柔軟に対応できる病院

- ・診療報酬改定をはじめとする医療制度や地域における入院需要の変化など、将来の医療環境の変化に柔軟に対応できるよう、施設を整備します。
- ・治療方法や医療機器の新たな開発・普及等による医療技術の進歩に柔軟に対応できるよう、施設を整備します。
- ・病棟部門は、将来の病床種別や病床数の変化に柔軟に対応できるよう、整備します。
- ・外来部門、手術部門、放射線部門等においては、内部空間の間仕切り等を柔軟に変更しやすい構造とします。

(6) ライフサイクルコストに配慮した病院

- ・新市立病院建設に伴う将来の経営負担を軽減するため、地上階のみの建物計画、広いフロアによる階層数の抑制、シンプルな建物形状の採用等により、建設コストの低減を図ります。
- ・建物の長寿命化を図る構造計画、自然エネルギーの活用、省エネルギー設備の採用や保守・更新の容易さを考慮した施設・設備の整備等、ライフサイクルコストの縮減に繋がる手法を採用します。

3 新市立病院で充実させる機能等

	現病院（うわまち病院）	新市立病院（予定地：神明公園）
病床数	417床（387床） ・急性期 317床（287床） ・回復期 100床（100床） ※ 上記は許可病床。（ ）は稼働病床。	450床 ・急性期 350床（ICU等を含む） ・回復期 100床
敷地面積	約 38,000 m ²	病院用地として約 20,000 m ²
延床面積	約 20,000 m ² （1床あたり約 52 m ² ） ※ 20,000 m ² ÷ 387床 = 52 m ² /床	約 36,000 m ² （1床あたり約 80 m ² ） ※ 36,000 m ² ÷ 450床 = 80 m ² /床
構造	昭和 56 年新耐震基準の強度	免震構造
部門配置	救急・外来・病棟・手術・検査部門 などが複数の棟に分かれて配置 されている。 ※ 患者、職員の動線が効率的ではない	低層階には救急・外来・手術・検査部 門などを配置し、上層階には病棟部門 を配置することを基本とする。 ※ 動線を考慮したシンプルな建物の形状
標榜 診療科目	28 科	28 科（変更なし）
1ベッド あたり 占有面積 （4人部屋） 壁芯	約 6 m ²	10 m ² 程度
個室率	約 20%	20%程度
手術室	5 室 ※ 手術件数 3,000 件 （平成 30 年度）	10 室 ※ ハイブリッド手術及びロボット 手術への対応室を設ける。 ※ 将来の手術件数の増加に対応 する（4,850 件程度を想定）
救急・ ICU など	救命救急センター 24 床 ICU（集中治療室） 8 床 SCU（脳卒中集中治療室） 3 床 NICU（新生児集中治療室） 6 床 GCU（新生児治療回復室） 7 床	救命救急センター 24 床 ICU（集中治療室） 14 床 SCU（脳卒中集中治療室） 6 床 NICU（新生児集中治療室） 6 床 GCU（新生児治療回復室） 6 床

	現病院（うわまち病院）	新市立病院（予定地：神明公園）
外来 診察室	外来が各棟・各階に分散している。	関連する疾患ごとに診察室や受付をブロック化して配置する。
人工透析	8床 ※ 主に入院患者を対象	24床 ※ 維持透析患者を一定程度受け入れ、将来の患者増にも対応する。
患者相談 窓口	入退院支援センター 医療相談室 地域医療連携室 ※ 各部門がそれぞれ別の場所に設置	左記の各部門を集約化した総合患者支援センターを設置する。
院内保育 (事業所内 保育所)	定員 45 人	定員 50 人程度
病児・ 病後児保育	定員 5 人	定員 5 人程度
駐車場 台数	137 台	137 台以上

建設予定地

